

## 理学研究科

I	教育の水準	.....	教育 10-2
II	質の向上度	.....	教育 10-4

## I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 分析項目 I 教育活動の状況

#### 〔判定〕 期待される水準を上回る

#### 〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 複数指導教員制度を導入しており、学生1名に対し、研究分野が異なる教員2名を含めた副指導教員により、きめ細かい研究指導を行うとともに、就学上の相談にも応じるなど、多様な学生に対して個別の指導を行う体制を整備している。
- 平成27年度の全教員280名のうち、女性教員は19名、外国人教員は6名となっており、他大学を経験した者の割合も約80%となっている。
- 化学専攻では平成25年度から、地球惑星科学専攻では平成26年度から、TOEFLを入学者選抜試験に活用するなど、入学者選抜試験方法の見直しや改善等を行っている。
- スタッフ・ディベロップメント（SD）として、教務系事務職員を対象とした教育法規等の勉強会を年6回開催し、専門的知識の向上と教務的支援の向上を図っている。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 平成26年度に文部科学省スーパーグローバル大学創成支援事業に採択された「京都大学ジャパングートウェイ構想」を開始し、海外の主要な大学の研究者を副指導教員として共同学位指導を行う国際的博士課程教育プログラムを実施している。
- 京都府立の高等学校での大学院生教育ボランティアや大阪府教育委員会及び大阪教育大学と連携した高度理系教員養成プログラム等、理数科目の優れた教員養成に取り組んでいる。
- 海外大学や研究機関との学術交流を促進しており、学生の研究に対する国際的な視点を持たせる機会を設けている。また、学位論文の外国語での作成や、国内外の研究会での英語による研究発表を支援するなど、国際的な視野に基づく学生の教育や研究指導を行っている。
- 平成24年度から相談室を設置し、臨床心理士の資格を持つ専任の相談員を配置するとともに、精神的な問題を抱えた学生や対応する教員への相談に応じており、平成27年度は31名の学生が相談室を訪れている。

以上の状況等及び理学研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

### 〔判定〕 期待される水準を上回る

#### 〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）の年度ごとの学位授与数は、修士課程では平均276名、博士課程では平均106名となっている。
- 大学院生の顕著な研究業績や国際学会等における研究発表が評価され、第2期中期目標期間の受賞状況は、日本学術振興会育志賞をはじめ345件となっている。
- 第2期中期目標期間の日本学術振興会特別研究員の平均新規採用数は、DC1は24.8名、DC2は25.5名、PDは8.7名となっている。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 修士課程修了生の進路について、博士後期課程への進学は42.7%となっている。就職では研究所や製造業、中学校・高等学校、マスメディア関係等、理学の素養を活かす職種や、保険会社、銀行、コンサルティング等、数理・情報処理能力を求められる業種に就職している。また、博士後期課程修了生の就職は、ポスドクが49.1%、大学教員等が18.5%となっている。

以上の状況等及び理学研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

## Ⅱ 質の向上度

### 1. 質の向上度

〔判定〕 改善、向上している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 第1期中期目標期間（平成16年度から平成21年度）から、文部科学省グローバルCOEプログラム（GCOE）に5専攻の取組が採択され、第2期中期目標期間においても継続して海外大学との連携も含めた博士課程教育に取り組んでいる。また、GCOE終了後の文部科学省の卓越した大学院拠点形成補助金にも4専攻の取組が採択されている。
- 文部科学省博士課程教育リーディングプログラムにおいて、グローバル生存学リーディング大学院（平成23年度採択）、霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院（平成25年度採択）に2専攻が参画しており、国際的な視野での学生の教育や研究指導に取り組み、大学院生に対する新しいキャリアパス教育の可能性を広げている。
- 平成26年度に採択された文部科学省スーパーグローバル大学創成支援事業「京都大学ジャパングートウェイ構想」において、海外の主要な大学の研究者を副指導教員として共同学位指導を行うとともに、フィールズ賞受賞者等の国際的に卓越した研究者を特別招へい教授として雇用し、学生への特別講義や研究指導を行う国際的博士課程教育プログラムを開始している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 第2期中期目標期間の受賞状況は、日本学術振興会育志賞をはじめ345件となっている。
- 第2期中期目標期間の日本学術振興会特別研究員の平均新規採用数は、DC1は24.8名、DC2は25.5名、PDは8.7名となっている。

これらに加え、第1期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。